

※本紙の英語版・中国語版・韓国語版・フランス語版は、当協会HPからダウンロードできます。

(財)福島県国際交流協会 平成23年6月30日発行号

この度の東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。福島県内在住の外国出身県民の皆さんや国際交流団体の様子などをお伝えします。

なお、次号からは当協会HPにおいて一部を定期的に掲載していきますので、今後もご愛読をよろしくお祈りいたします。



福島は今



尾瀬沼で環境学習を楽しむ子どもたち (桜枝岐村 2011.6.3 撮影)



大会に向けて稽古に励む空手道場 (福島市 2011.6.4 撮影)



新鮮な野菜を求める客で混み合う農産物直売所 (伊達市 2011.6.14 撮影)



福島からの声

徐 秀蓮さん (韓国出身 女性 福島市)

震災時は、子どもの卒業式から戻ってきて家の前に車を停めたところでした。突然の大きな揺れに『家が壊れる』『神様助けて』と叫んでいました。原発事故のこともあったので、夫を残して3月一杯は子ども二人と一緒に東京の知人宅に身を寄せていました。4月に入って子どもたちの学校が始まるのを機に福島に戻ってきました。今なお避難所で不自由な生活を強いられている人たちを見て、私にも何かできないかと、今は、オリジナルの復興応援歌『3月11日から明日へ』を県内各地の避難所で歌って皆さんを勇気づける活動をしています。

サンジェイ パリークさん (インド出身 男性 郡山市)

放射能が不安です。今は学校が始まったので中学生と高校生になる子どもはここにはいますが、原発事故の直後である13日には、ここから250km離れた川崎市の親せきの家にしばらく預けていました。政府や東京電力は確率論で議論をしていますが、そんなことはここに住んでいる者にとっては何の意味も持ちません。私たち家族は子どもの学校のことや自分の仕事のこと、そして長くここに住んでいる両親のことがあるので郡山にいます。でも時々週末には、リフレッシュのため会津の温泉に出かけたりしています。

劉 延廷さん (中国出身 男性 福島市)

今大学3年生です。地震後は、友人宅や避難所に身を寄せていましたが、15日には中国政府が準備したバスで新潟に向かい母国に一時避難しました。大学も始まるので5月10日の夜に福島に戻りました。翌日大学に行ってみるとマスクをつけている人も思ったほどいないし、みんな楽しそうに笑顔でサークル活動をしている様子に感動しました。もちろん不安を持って福島に戻りましたが、この様子を見て、「大丈夫、あと2年がんばって大学を卒業しよう」と思いました。『負けない、がんばろう、福島』です。

石田 セシリアさん (ブラジル出身 女性 福島市)

私はちょうどその時ブラジルに里帰りしていました。福島に残した夫とは2日後にやっと連絡が取れました。13日には成田に帰国したのですが、新幹線が不通で高速バスのチケットもなかなか取れず、結局福島に戻ったのは28日です。子どもたちが元気に外で遊ぶ姿が見られないこと、いつも放射能のことが頭から離れないことなど、今まで当たり前と思っていた生活ができないことが残念です。でも、その中でも楽しみを見つけて暮らしていきたいです。私は、福島が大好きです。一日も早くこれまでの福島に戻ってほしいと願っています。



ユセコ ガリレオさん

(石川町 オーストラリア出身)

石川町で英語指導助手をして3年目になるガリレオさんは、地震後、Tシャツ会社に勤めている友人からのメールがきっかけで、チャリティTシャツのプロジェクトを始めました。会津若松観光物産協会の使用許可の協力を得て『あかべえ』のロゴを入れてガリレオさんがデザインしました。



ツイッターなどのソーシャルネットワークを活用し、4月中旬から販売を始めて6月中旬の2か月間に、県内だけでなく全国さらにはアメリカなどの海外からも注文がありました。これまでの注文数は約1,000枚。その

収益金のすべてを福島県に送ることにしています。ガリレオさんは、「直接現地に行って支援活動はできないけど、何か役に立ちたいと思っている人が世界中にいる」と話しています。 <http://fukushimatshirt.blogspot.com/>

アロハ・イニシアティブ (福島市)

NPO 法人マウイ日本文化協会では被災者支援として、『Opening hearts. Opening homes.』をキャッチフレーズに「アロハ・イニシアティブ」プロジェクトを開始しました。このプロジェクトは、被災地の人たちをハワイに招待し、2週間から3か月間ホームステイしながら、その家庭の暖かいもてなしに触れること『Aloha Spirit』(アロハ・スピリット)で心と元気を取り戻してもらおうというものです。その窓口になっているのが福島市在住でハワイ出身の森口・マリアンさんです。マリアンさんは、「今回の募集では定員60人に対しその3倍の190人の方々から応募がありました。選考手続きなどで忙しい毎日ですが、人のために役立っている充実感がありますね」と意欲を語っています。



<http://alohainitiative.com/>

ルワンダの教育を考える会 (福島市)

代表を務めるカンベンガ マリールイズさんは、ルワンダ内戦の際自分自身も家を失い、家族がバラバラになった経験を持っています。今回の震災では被災された方々の気持ちが痛いほどわかると言います。この会では、3月25日、当時避難所になっていた福島高校を皮切りに、これまで福島市内や二本松市内、伊達市内の避難所6か所で、時にはマリールイズさん自身が自分の体験談

をもとに生きていることの大切さを語りかけたりしながら、時には会員のフルート演奏家によるミニコンサートを交え、ルワンダのコーヒーや紅茶などを避難している方々に振る舞っています。7月18日にはチャリティ『ネパール竹笛コンサート』を福島市内で開催することになっています。



<http://www.rwanda-npo.org/>

ふくしま多文化共生サポーターの皆さん

今回の震災後、『外国語による地震情報センター』において、ふくしま多文化共生サポーターの皆さんには英語や中国語の翻訳通訳の活動のご協力をいただきました。皆さんご自身も被災していろいろと大変なところ、快く活動を引き受けていただきました。未曾有の震災の中、外国語による情報提供は外国の方々の大きな心の支えとなりました。ありがとうございました。



岩間真弓さん (中国語) 貝沼実千代さん (英語) 佐久間香織さん (英語) 大宮美咲さん (英語)



お知らせ

平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報

福島県HPでは、「環境放射能測定結果(暫定値)」をはじめ、様々な被害状況即報を日本語、英語、中国語で随時更新しています。なお、当協会HPでは、その一部を、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で更新しています。

<http://wwwcms.pref.fukushima.jp/>

当協会業務時間の変更

当協会では7月1日より通常業務となります。なお、『外国語による地震情報センター』は、通常業務時間の中で引き続き行いますので、お気軽にお問い合わせください。

●時間：火～土 8時30分～17時15分

(日、月、祝祭日、年末年始は休み)

発行者

(財) 福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308 E-mail info@worldvillage.org URL <http://www.worldvillage.org>